

1 研究テーマについて

「豊かな感性と確かな学力をもつ子どもの育成」

～「地域とつむぐ授業」を中心としたカリキュラム・マネジメントを通して～

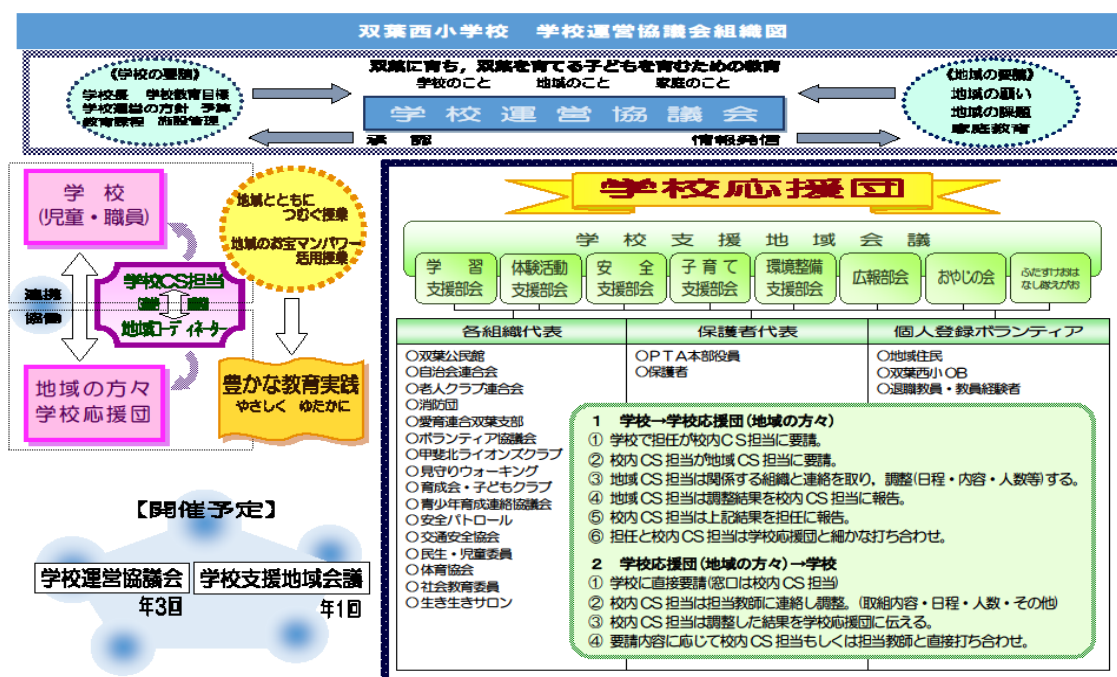
2 テーマ設定の理由

(1) 本校のこれまでの研究経過から

本校では、平成22年度に文部科学省のコミュニティ・スクール研究指定校となつてから、児童が地域の「ひと・もの・こと」と主体的に関わっていくことにより「豊かな感性と確かな学力をもつ子どもの育成」を目指して研究を重ね、本年度で11年目になる。平成24年4月からは、山梨県初のコミュニティ・スクールとしてスタートし、学校運営協議会の補助機関として学校支援地域会議を設置した。この学校支援地域会議は、8つの部会（①学習支援部会②体験活動支援部会③安全支援部会④子育て支援部会⑤環境整備支援部会⑥広報部会⑦ふたすけおはなし隊えがお⑧おやじの会）から構成され、その中でも、①学習支援部会では、ゲストティーチャーの招聘や教科の補習などを通して道徳・食育・環境・人権・平和などを含む教科等の指導の支援を受けてきた。このような活動を本校では、「地域とつむぐ授業」という授業スタイルを通して研究を進めてきた。「地域とつむぐ授業」とは、本校だからこそできること、この地域だからこそできることを、学校目線だけでなく地域の方々の目線を取り入れたり、地域の方の子どもたちへの思いを重ねたりしながら深めていく学習活動である。

これまでの11年間、課題を検討しつつ授業スタイルを考えながら、地域と学校が建設的な双方向の関わりをもち、地域の目線が地域の子どもの健全育成に向けられている。そして子どもたちの活動を温かく見守りつつ、学校の行事や授業に保護者でなくても学校応援団として加わることができる体制も整っている。

一方、子どもたちも、学校応援団との関りを豊かな経験と知識を得られる場として考えている。昨年度は、「食育」をテーマとして「給食について」や「米作り」、「郷土料理について」などの学習で、栄養教諭や地域の方の指導や助言を受けながら研究を進めた。今年度は、新しい教育課程を実施していく中で教科の特質を考えながら、より学校に適した内容にしていくことを進めている。



(2) 今日的な課題から

今年度より小学校で始まった新学習指導要領では、ポイントとして「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて地域と学校の連携・協働体制を推進している。また、学校教育目標を実現するために、教育課程を計画的かつ組織的に編成・実施・評価し、教育の質を向上させるカリキュラム・マネジメントは、教育における必要な要素として位置づけられている。

新学習指導要領改訂のポイントは、「主体的・対話的で深い学び」である。「対話的な学び」とは、子ども同士の協働、教職員の地域の人との対話、先人の考え方を手がかりに考えることで、考えを広げ深める学びである。コミュニティ・スクールにおいても地域の人の話を聞くだけでなく、地域の人と対話し、発展・深化させていく学習に結びつくことが望ましい。また、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていき、実施に必要な人的または物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことを通して、学校教育活動の向上を図っていくことに努めていくことも必要となる。

3 研究内容

全ての教育活動のベースになる学級づくりをする段階。学び合いが成立するための人間関係づくりと学習ルールの構築。地域との関わりのベースになる自己肯定感やコミュニケーション能力の下支えともなる。・・・6月

- 豊かな心を育む(教育活動のベース)
 - ・学級づくり(年度のスタートとしての重要課題)
 - 「ルール」と「リレーション」の確立。

学び合い、地域教材に関する研究の仕込み段階。・・・6月中旬～12月

- 学び合いの授業の推進。子どもたちの発達段階に合わせて、いろいろな方法で取り入れる。
学び合うスタイルが定着しつつあるので、いろいろな教科・領域等にも意識して広げていく。
熟議スタイルの活用が可能であれば取り入れたい。
- 地域教材を生かした授業づくり・地域と紡ぐ授業づくりを進める。⇒1月の公開へ
CSコーディネーターの活用。効果的な活用方法の模索。実践記録カードを更新していく。
2学期半ばには公開授業の具体的な内容を決める。
- 理論研究

言語活動、地域教材に関する研究の本年度のまとめ段階。・・・1月～3月

- 公開 ⇒ 1月
- 本年度の学級づくり・学び合いの授業づくり、地域教材を生かした授業づくりについてのまとめをする。教育課程にも位置づけ、次年度以降にも生かせる財産とする。
研究の深化・検証 ～2月上旬 研究のまとめ 2月下旬

4 研究の方法

- (1) これまでの研究の蓄積をもとに、学び合いの基礎となる学習ルールや家庭学習について全校で一貫した指導を実践する。(「声のものさし」「聞き方名人」「話し方名人」「家庭学習の手引き」)

- (2) コミュニティ・スクールの実績をもとにした「地域とつむぐ授業」(ゲストティーチャーの招聘など)を
実践し、検証する。
- (3) 「地域とつむぐ授業」と各教科等の地域人材活用を見直しながらカリキュラム・マネジメントを行い、教
科横断的な年間指導計画表を作成する。

5 研究組織



※ワーキング・グループについて

(1)ブロック WG・・・ブロックリーダーが中心となって、ブロック研究を進める。適宜、時間を確保して行う。

(2)CS WG・・・学校応援団との打ち合わせ窓口。

校内コーディネーター（SC）は、教頭先生。

地域コーディネーター（TS）は、山本さん。

各学年の授業の細かい打合せ・月毎の予定表の作成は、学年担当。

地域教材のデータ管理

6 研究計画

研究会名・活動名	研究会日	形態	主な研究内容・活動内容	司会・記録
第1回校内研究会	4/13(金)	全体研	研究テーマ・研究内容・研究組織・研究計画について	高学年
学校運営協議会	5/29(金)			
第2回校内研究会	6/3(水)	全体研 学年 ブロック	ブロック研究の方向確認 地域と紡ぐ授業・地域人材の活用について 児童の実態把握と課題設定	中学年 各ブロック
道徳教育推進事業 道徳授業地域公開	6/13(土)	土曜参観	全学級で道徳の授業公開を行う。(中止)	
第3回校内研究会	6/24(水)	全体会 ブロック	各学年の地域に関する授業の方向確認	低学年
第4回校内研究会	7/27(月)	全体会 ブロック	各学年の地域に関する授業の方向確認	教務
第5回校内研究会	8/17(月) (午後)	全体会 ブロック	各学年の地域に関する授業の方向確認	高学年
第6回校内研究会	9/11(金)	学習会	「新しい評価規準」に関する学習会 講師：総合教育センター 外川陽清先生	中学年
第7回校内研究会	10/7(水)	全体会 ブロック	各学年の地域に関する授業検討	低学年
第8回校内研究会	11/18(水)	全体会	公開指導案検討	教務
第9回校内研究会	12/9(水)	全体会	紀要について	高学年
第10回校内研究会	1/20(水)	全体会	CS 公開準備（会場設営、会場準備等）	
CS 公開研究会	1/21(木)		公開研究会・授業提案	
第11回校内研究会	2/15(水)	全体会	公開研究会のふりかえり 本年度の研究のまとめ 来年度に向けて	教務